

「戦争は最大の環境破壊！」

第41回全国公害被害者総行動



4・14 神奈川共同行動

全国公害被害者総行動は、全国各地の公害被害者団体などが手をたずさえて取り組んできた運動です。今年は、第41回公害総行動が6月1日(水)・2(木)の両日に行われます。

「公害の根絶と平和を求めて」を合言葉に1976年以来、全国の公害被害者によって取り組まれてきた全国公害被害者総行動は、イタイイタイ病、水俣病、大気汚染公害、薬害などで多くの成果を勝ち取り、公害行政の前進に貢献してきました。一昨年の関西電力大飯原子力発電所運転差止め仮処分決定、及び泉南アスベスト国賠訴訟の最高裁判決は「人の命と暮らしこそ最大の価値」であることを認めました。

しかし、今日、公害は終わるどころか、2011年の「東京電力福島原発事故」による放射能汚染による被害をはじめ、土壌、大気、水質の汚染、薬害や基地騒音の増大、アスベストによる健康被害のさらなる顕在化等々、健康や環境の破壊が進行しています。とりわけ、福島原発事故は、福島の人々に取り返しのつかない被害を与えました。しかも国と電力会社は、原発を再稼働させ、火力発電所とともに主要電源と位置づけ、海外輸出を推進しています。

PM2.5の問題は大気汚染の原因物質が工業の発展と共に変化すること、放射線やアスベストの被害もますます広がることが懸念されています。公害や環境破壊は、新たな様相をもって私たちの前に立ち現われています。「戦争は最大の環境破壊」であり、地球温暖化は環境を激変させ、人類の生存をも脅かすものとなっています。

神奈川県内には、福島原発事故の避難者が3千人以上、大気汚染によるぜん息患者、建設アスベスト公害、公害を発生させる大型道路建設、リニア新幹線による大量の残土など住民の生命と健康、環境に関わる問題が山積しています。

これらの解決をめざして「4・14神奈川共同行動」がおこなわれます。

第41回全国公害被害者総行動実行委員会

4・14神奈川共同行動実行委員会

神奈川県横浜市中区桜木町3-9 平和と労働会館 6階

電話 045-212-5855 FAX 045-212-5745

4・14神奈川共同行動の流れ

<横浜コース>

8:00~ びら配布

JR関内駅、地下鉄関内駅

9:00~ 横浜地裁前行動

神奈川建設アスベスト

10:00 アスベスト裁判傍聴(横浜地裁)

10:00 アスベスト裁判支援集会(情報文化センター)

国土交通省横浜国道事務所申入れ

横浜環状道路南線

神奈川県申入れ

福島原発神奈川訴訟

横浜環状道路北線現地調査

リニア新幹線

保土ヶ谷高校シックススクール事件

横浜市申入れ

ぜん息患者の医療費助成

上郷公田線(横浜環状道路南線関連)

アスベスト建材企業

エーアンドエーマテリアル

11:00 決り集会(情報文化センター)

12:00 昼休みデモ(2016春闘激励)

横浜地裁前スタート→横浜市役所→東京電力神奈川支社→神奈川県庁

<川崎コース>

9:00 川崎市申し入れ

ぜん息患者医療費助成制度

生田浄水場

すべての公害被害者の救済と根絶を求めて！

首都圏アスベスト訴訟
「あやまれ！つくばえ！なくせアスベスト被害！」
 アスベストは、肺がんや悪性中皮腫を発病する物質です。政府や製造企業は、その危険性を知らながら、労働者には一切知らせず建設現場で大量に使用してきました。その結果、建設現場で働いてきた人たちが、次々と肺がんなどを発病、命を奪われています。
 現在、政府とアスベスト建材企業を相手に全国で訴訟が起こっています。これまでに東京・福岡・大阪・京都地裁で国は敗訴し、京都地裁では企業敗訴の判決が出されています。



良好な住宅地に計画された横環南線とそのアクセス道路の上郷公田線は公害の元凶とせよ
 一方、今では不要不急の道路であり計画は直ちに撤回すべき

横環南線は栄区の住宅地を貫く道路計画で沿線には谷戸で囲まれた地域です。掘削構造からの自動車排ガスはすり鉢状の谷戸全体に充満し、深刻な大気汚染公害をもたらします。また、トンネル内排ガスはNO2やPM2.5の大気汚染物質を除去せず換気塔から周辺住宅地にまき散らされ、深刻な大気汚染発生の怖れがあります。その上、大規模に埋立て造成地内のトンネル掘削から住宅地の地盤沈下は避けられない状態です。この高速道路は、すでに計画から30年が過ぎ、計画時の高度成長経済時代から内外経済の低迷下に加えて、国の負債100兆円を超え、とどまることを知らない国の財政破綻状況、さらに、急速な人口減少時代となった社会環境変化から横環南線、上郷公田線は不要不急の道路計画であり、直ちに計画を撤回すべきです。

「薬民」を許さない！フクシマに蓋はさせない！

「山は青き」はずのふるさととは、いたるところ黒いフロンパックの山。その数11万5千。「水は清き」はずのふるさととは、放射能汚染水が流れ続ける中で、6度目の春を迎えています。安倍政権は、あと1年足らずの来年3月で避難者への住宅提供を打ち切り、避難指示を解除し、賠償を打ち切つて、放射線管理区域の数倍もの放射線が飛び交う被災地へ帰還か、流浪の道か、の選択を迫っています。



「私たちは、何か悪いことをしたのでしょうか」。全国に10万人余、神奈川県でも3千人を超える避難者の声は、彼らには届きません。
 原発再稼働と戦争準備のために、未曾有の核事故の被害者を切り捨て、「フクシマ」に蓋をする非道・無法を私たちは許しません。

ぜん息になるごとに約6千円以上の医療費がかかります

(治療代と薬代、通院1回、3割負担) 横浜市内には、約2万人のぜん息患者の児童がいます(横浜市立学校におけるぜん息被曝率)による市内の小学校344校、中学校148校の男子生徒のぜん息患者数。小学校の男児では2割を超えるぜん息児童がいる学校もあり成人のぜん息患者と数万人になると推定されます。いま「横浜市ぜん息患者の救済をめぐす会」が横浜市議会への署名運動が取り組まれています。ご協力ください。



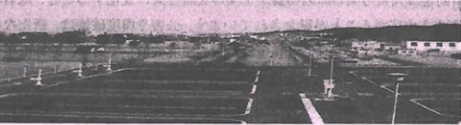
あなたの真下をリニアが通る

リニア新幹線建設工事の起工式が各地で行われています。自然環境や生態系、市民生活、地下水などに深刻な影響があるのに、問題を積み残し、工事を見切り発車させれば、将来取り返しのつかなくなることは明らかです。品川、名古屋間のリニアルート周辺で土壌汚染の事実も明らかになっています。神奈川県のリニア工事では、1,140万㎡(東京ドーム4.5杯)もの残土が発生します。再利用が決まっているのはリニア車両基地の造成だけです。残る7割は、搬送ルートも処分先も不明です。リニアは、在来新幹線の3~4倍もの電力を浪費します。脱原発社会をめざす国民の願いと逆行するものです。
 神奈川県や川崎市は、県民市民にメリットのないリニア事業の見直しをもとめるべきです。



かわささの安全でおいしい水道水を守ろう

生田浄水場の水道水は3月で地下水利用をやめ、56%も離れた小田原の酒匂川からの水になります。企業団の西長沢浄水場にして、相模湖の水とブレンドされ、家庭に配られます。川崎の安全でおいしい水道水を守る会の3万を超える請願署名で15の井戸が残ることになりました。川崎市は、相模湖の水で十分な高価で水質の悪い企業団の水を買うの裁判が、おこなわれています。何と企業団の基本料金を1トン当たり、3.7円も下げたのです。これは年間5億円の削減になります。今後も命の水、生田浄水場存続運動にご協力ください。



保土ヶ谷高校シックスクール裁判

この事故は、2004年9月、防水工事開始直後からシンナー臭が発生しました。その結果、職員に体調不良が頻繁に起こり、学校に訴えたが何ら対処されませんでした。職員、生徒は、有害な揮発性有機化合物が放散する教室で授業を受け続けました。県教委等にも検査、改善を求めましたが、4か月間も濃度測定が遅れ、被害を拡大させてしまいました。この事件は国会でも質問され、2005年には文部科学大臣が謝罪し、東京高裁判決ではVOC濃度が指針値を超えていたことを認めています。県教委は、生徒・職員に健康被害を与えたことを真摯に受けとめ、健康被害を受けた被害者に謝罪し、責任を負うべきです。